

菊川西中だより

校長室の窓

学校の4月は特別!
去年良かったは今年への期待感だ!



前年度末14人の先生たちを送り出し、本日の新任式で11人の先生たちを迎えました。昨年度より1学級減ったこと、昨年度は教職員組合専従と大学院への派遣職員がいたため、職員数は3人少なくなりましたが、子どもたちの指導に当たる職員は、学級減に伴って実質1人減っただけです。(学校HP「校長室の窓」ページ掲載中)本年度も全職員で本校教育を推進する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年の4月号にも書きましたが、私は**学校の4月は他の職場の4月に比べて特別な意味**を持っていると常々思っています。「新しい教室」「新しい担任の先生」「新しい教科書」……。子どもたちの周りには「**新しい〇〇**」がいっぱいです。子どもたちの心の中には、程度の差こそあれ「今年の部活は、夏の大会で全国までいくぞ!!」……など「**今年は〇〇したい**」という思いで一杯です。

私がある中学校で1年生の担任をした時です。1年が過ぎようとしている3月、子どもたちが「学級納めの会」を計画しました。会が進み、『みんなで合唱コンクールの時の歌を歌おうよ』ということになって、伴奏用のキーボードがセットされ、子どもたちは教室の後ろにパート別に並びます。指揮者の腕が上がり、合唱が始まりました。コンクールのために散々練習した曲です。伴奏者も全て暗譜で鍵盤に指を走らせます。私は教室の前に立ち、目をつぶって子どもたちの歌声を聞いていましたが、ふと目を開けて子どもたちを見ると何人かが涙を流し、泣きながら歌っています。

『おい、おい、まだ1年生だぞ!!中学校はまだ2年あるんだぞ』と、心の中で突っ込みを入れましたが、聞いている私もだんだん目頭が熱くなってきます。歌い終わってしばらく沈黙が続きます。誰もが余韻に浸っています。沈黙を破るように私一人の拍手が教室に響きました。

中学生活が後2年あることなど誰もが承知です。それでも同じクラスで過ごした1年間への**名残**が子どもたちに涙を流させたのです。私のクラスが特別良いクラスだったわけではありません。けんかもしましたし、長縄跳びの記録が伸びずに言い争いもしました。担任の私が大声を上げて子どもたちをしかった事もありました。そんなある日、理科室で実験器具の整備をしていると『来年も森田先生のクラスが良いな』と遠慮がちに言う男の子がいました。心の中ではとてもうれしかったのですが、それは人事の問題です。「よし、そうしよう」など言えるわけも無く、「そうだねえー」と、軽く受け流しておきました。自分の学級づくりがうまいから、子どもたちが1年生でも名残を惜しんでくれたなどと言う気はさらさらありません。しかし同年代の子どもたちが集まって、年上の先生と一緒に同じ空間で過ごし、苦楽を共にする中で生じる思いはけっこう強烈です。そして、この思いが子どもたちを成長させると思っています。そんな子ども達の成長に寄り添って仕事ができる楽しさ、すばらしさ。私はこれが**学級担任の醍醐味**だと思っています。

さて4月、新しい学級がスタートすると「去年のクラスは良かったな」と思える瞬間が子どもたちにも、先生たちにもあるかもしれません。しかし私はこの思いは「今年のクラスで、去年よりもっと良い時が過ごせると良いな。」と言う期待感の裏返しだと思うのです。「去年のクラスが懐かしいな」という思いがしたら「今年もっと良いクラスになるぞ」と読み替えると良いと思います。そうして毎日を過ごし、3月を迎えるとまた「このクラスで良かった。楽しかった。」という気持ちになります。またひとつ子どもたちの成長が見えた瞬間です。本年度も子どもたちの成長の姿を学校ホームページで1年365日お届けします。基本的に1日2回(8時、正午)更新します。